覚醒、寝付きの悪さの各症状が閉経前群よりも閉経群および月経周期不安定群で有意に増加した。ロジスティック回帰分析により、閉経は、血管運動症状には有意な関連があるが、他の更年期症状には有意でないことが明らかになった。日本人女性は、更年期症状の有訴率が低く、ホルモン補充療法の利用も低率であることが知られている。本研究により、日本人女性の血管運動症状は閉経と関係するが、他の更年期症状は自覚的健康度、ソーシャルサポートや職業と関係することが明らかになった。

(*J Occup Health* 2001; 43: 356-364)

通信先: 塩飽邦憲, 〒693-8501 出雲市塩冶町 89-1
島根医科大学環境保健医学第2

Asbestos-Related Pleural Abnormalities Detected by Chest X-Ray: Fair Agreement with Detection by Computed Tomography

Narufumi SUGANUMA, Yukinori KUSAKA,

Yomei HIRAGA, Yutaka HOSODA, Hisao SHIDA,

Hiroshi MORIKUBO and Toru MATSUMOTO

胸部単純X線写真によるアスベスト関連性胸膜病変: CT との一致

菅沼成文, 日下幸則, 平賀洋明, 細田 裕,
志田寿夫, 森久保 寛, 松本 徹

目的: ILO 国際胸部X線じん肺分類 (ILO 1980) は世界中で粉じん曝露者の評価の為に用いられている。近年、CT がじん肺を含む慢性肺疾患のより正確な診断の為に臨床現場で導入されてきている。我々は胸部単純X線写真 (CXR) がCT と同程度の正確さでアスベスト関連肺疾患患者の胸膜病変を指摘できるかどうかを検討した。対象と方法: 1,178 人のアスベスト曝露歴のある退職者に間接撮影を行ない、異常を指摘された80名を対象とした。彼らに対しCXRとCTを施行し、呼吸器内科医と放射線科医によるCTの読影とILO 1980に関する2名の専門家によるCXRの読影を行なった。CTとCXRの読影は独立して行なった。それぞれ2名ずつの合意を得たCT, CXRの読影結果についてkappa値を求め一致を調べた。感度、特異度についてもCTを確定診断として計算した。結果: 80名のうち、65名 (83%) がCXRで胸膜病変を指摘された。その65名のうちCTで確定されたのは61人であった。CXRとCTによる読影結果はCohenのweighted kappaで0.53と中程度の一致を見た。CXRのCTに対する感度、特異度はそれぞれ0.94と0.73であった。CTのみで検出し得た胸膜病変は1例 (2.5%) のみであり、4症例がCXRでは指摘されたがCTでは確認できなかった。結論: CXRとCTによる胸膜病変の広がり検出は中程度の一致をみた。ILO 1980のような標準化されたシステムを用いればCXRは、今なお粉じん曝露者の胸膜病変の検出におい

て有用な検査であることが示された。

(*J Occup Health* 2001; 43: 365-370)

通信先: 菅沼成文, 〒910-1193 福井県吉田郡松岡町下
合月 23-3 福井医科大学医学部環境保健学講座

Obesity Has an Inverse Relationship with a Depressive State

Tomoyuki KAWADA and Shosuke SUZUKI

肥満は抑うつ状態と負の関連がある

川田智之, 鈴木庄亮

肥満 (やせ) が抑うつ状態を引き起こす、あるいは抑うつ状態が肥満 (やせ) につながるなど、抑うつ度と肥満度との関連性については未だ確定的でない。地域調査では、対象者の教育レベル、婚姻状態、健康状態、心理・社会・経済状態、社会的ネットワークなど、調整すべき要因が多い。その点、職域では、各調整要因のばらつきが相対的に小さいと考えられるので、肥満度と抑うつ度との関係がより明確になる可能性がある。ここでは2つの職域で、肥満度と抑うつ度との関連性を検討した。

乳業男性社員の身長と体重、および東大式健康調査票THIを配布して、3531名から解析可能な回答を得た。また、輸送業男性社員の身長と体重、およびツングの自己評価式抑うつ尺度調査票を配布して、3188名から解析可能な回答を得た。有効回答率は、乳業88.3%、輸送業91.1%であった。THI抑うつ尺度 (THI-D) は、10項目の3択式質問文 (各1~3の粗点) からなり、単純加算して10~30の尺度得点を求めた。ツングの自己評価式抑うつ尺度 (SDS) は20項目の4択式質問文 (各1~4の粗点) からなり、単純加算後1.25を乗じて25~100の評価得点を求めた。また、肥満度はケトレー指数をBody mass index (BMI) として用いた。職域では、年齢依存性に抑うつ度が低下するので、年齢を共変量とした分散分析後、平均値の多重比較を行なった。また、対象者の抑うつ度は対数正規分布であったので、以降は対数値で統計解析を行なった。BMIカテゴリー別の抑うつ度を比較すると、乳業および輸送業ともに、BMIの上昇に伴って抑うつ尺度の平均値が有意に低下した。輸送業では日勤者、夜勤者の解析をそれぞれ行なったが、すべて同じ結果であった。既報では、両者の関係はさまざまであるが、ほとんどが地域住民データによる解析結果である。今回の結果から、2つの男性職場で異なる質問紙を用いたが、BMIと抑うつ度との間には負の関連性を認めた。いわゆる「ジョリーファット: 陽気な肥満者」を支持する。なお、乳業女性社員の肥満度と抑うつ度との関連性は認められなかった。

(*J Occup Health* 2001; 43: 371-374)

通信先: 川田智之, 〒371-8511 前橋市昭和町 3-39-22
群馬大学医学部公衆衛生学教室